

経済・金融 フラッシュ

景気ウォッチャー調査 13年5月 ～現状判断DI、先行き判断DI共に上昇が一服

経済調査部門 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

景気ウォッチャー指数

	景気ウォッチャー調査 現状判断DI				景気ウォッチャー調査 先行き判断DI			
	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
12年5月	47.2	46.4	45.9	55.2	48.1	47.7	47.7	51.6
6月	43.8	42.1	44.4	53.9	45.7	44.5	46.8	50.8
7月	44.2	42.8	44.8	52.1	44.9	43.9	45.8	49.4
8月	43.6	42.1	44.0	52.5	43.6	42.6	45.0	47.6
9月	41.2	40.2	40.0	50.8	43.5	44.1	41.3	44.9
10月	39.0	38.4	38.3	44.3	41.7	41.9	40.5	43.2
11月	40.0	39.2	40.6	44.5	41.9	42.0	41.9	41.2
12月	45.8	45.5	45.6	48.5	51.0	50.2	52.8	52.8
13年1月	49.5	48.3	50.2	55.3	56.5	55.4	58.6	58.9
2月	53.2	51.7	55.0	58.6	57.7	57.0	59.1	59.3
3月	57.3	56.9	56.1	63.1	57.5	57.0	57.3	60.9
4月	56.5	55.5	56.7	62.3	57.8	56.8	58.8	61.8
5月	55.7	54.4	57.1	61.7	56.2	55.0	57.6	61.0

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

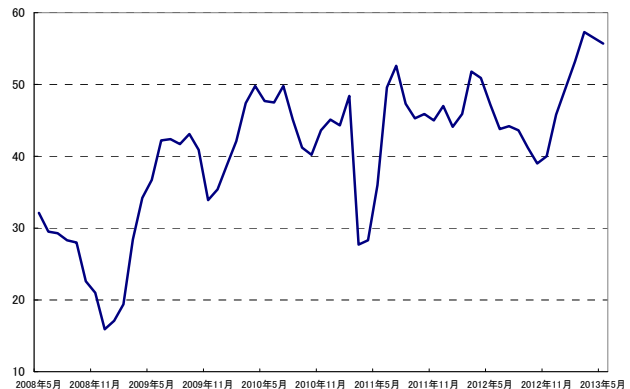
(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種（小売関連、飲食関連、サービス関連など）の景気判断、企業動向関連業種（製造業、非製造業など）の景気判断、雇用関連業種（人材派遣業、職業安定所など）の景気判断を示す。

1. 景気の現状判断DI 動向：2ヶ月連続の低下

6月10日に内閣府から発表された2013年5月の景気ウォッチャー調査によると、景気の状態に対する判断DIは55.7となり、前月を0.8ポイント下回り2ヶ月連続の低下となったものの、水準自体は引き続き高かった。

項目別に見てみると、家計動向関連は、54.4ポイントと前月を1.1ポイント下回った。その主な要因としては、①5月上旬になっても気温がなかなか上がらず、衣料品の売上が芳しくなかったこと、②ゴールデンウィーク終了後に飲食店への来客数が大幅に減るなど、本格的な消費者マインドの改善には未だに至っていない

景気の状態判断DIの動向

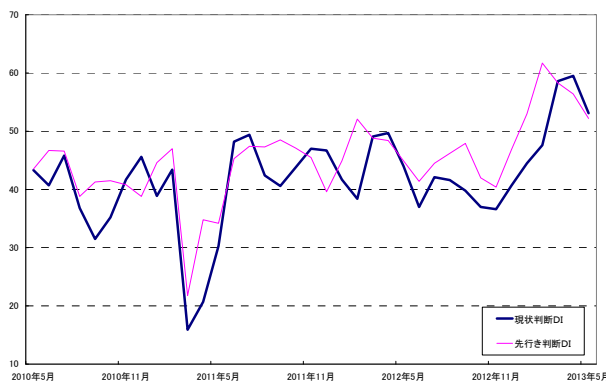


(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

こと、③安倍政権による景気刺激策を主因とした円安基調に伴い、海外旅行が低調なこと、の3点が挙げられる。

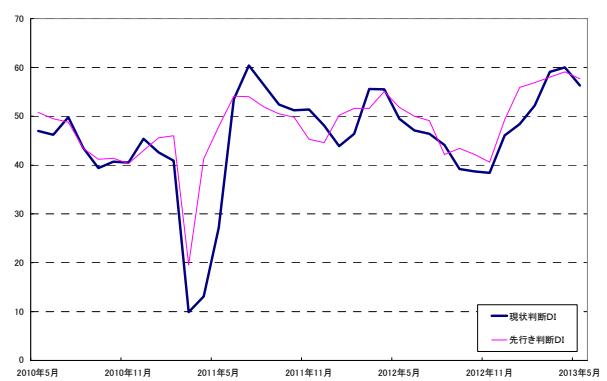
①に関する具体的なコメントとしては、「春が遅く、5月なのに雪が降り、桜の咲く時期も遅れている。5月末ようやく暖かくなり、客単価も上がってきたものの、関連商品の販売がともなわなかった。」（北海道＝衣料品専門店）などがあり、衣料品専門店のDIは51.6ポイントと前月を1.7ポイント下回った。②に関する具体的なコメントとしては、「消費者はゴールデンウィーク中にお金を使い、ゴールデンウィーク後は外出を控えるので、ゴールデンウィークを過ぎると極端に売上が落ち込み、来客数も激減する。」（東海＝一般レストラン）などがあり、飲食関連のDIは53.1ポイントと前月を6.4ポイント下回った。③に関する具体的なコメントとしては、「前年に比べて海外旅行が低調で、国内旅行が幾分良くなっている。全体としては微減となっている。」（北海道＝旅行代理店）などがあり、旅行・交通関連のDIは56.3ポイントと前月を3.7ポイント下回った。

飲食関連



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

旅行・交通関連



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、57.1ポイントと前月を0.4ポイント上回った。これは「自動車部品については、期初に計画した水準を上回る受注が入ってきている。さらに、輸出環境も改善されてきている。」（東北＝一般機械器具製造業）など、安倍政権による金融緩和強化に伴い為替が円安基調で推移することで、製造業を中心に多くの企業の収益が改善していることが影響していると思われる。ただし、「燃料価格上昇が経営を圧迫している。」（四国＝輸送業）など、過度な円安の進展に伴う輸入物価の上昇から収益が圧迫される懸念もみられた。

雇用関連は、61.7ポイントと前月を0.6ポイント下回った。これは「求人数が減っており、景気が良いとは思えない。」（四国＝人材派遣会社）など、依然として安倍政権による景気刺激策の効果が本格的な雇用環境の改善にまでは及んでいないことが影響していると思われる。

また、地域別に見てみると、景気の現状に対する判断 DI は全国 11 地域中 8 地域で対前月比低下し、3 地域で対前月比上昇した。最も低下したのは北海道（3.8ポイント低下）、最も上昇したのは北陸（1.4ポイント上昇）であった。北海道は、天候不順が続いたことで、飲食関連や衣料品などの消費需要が低迷した影響と思われる。一方、北陸は、決算内容が良好な地域企業が多かった影響とみられる。

2. 景気の先行き判断 DI 動向： 2ヶ月ぶりの低下

景気の先行きに対する判断 DI は 56.2 となり、前月を 1.6 ポイント下回り 2ヶ月ぶりの低下となったものの、水準自体は引き続き高かった。項目別に見てみると、家計動向関連は、55.0 と前月を 1.8 ポイント下回った。夏のボーナス増額に伴う個人消費の活発化が期待されるものの、5月下旬から株価が下落基調で推移する中、円安を主因とした生活必需品の値上げに伴う家計圧迫懸念が下押し要因となっている。具体的なコメントとしては、「景気の回復期待を象徴していた株価が急落したほか、円安による輸入品の価格上昇が生活に影響を及ぼし、家計支出が抑えられる懸念がある。」（近畿＝一般レストラン）や「夏のボーナスの増額など、景気の良い話題が多いが、店頭での買物動向に変化はみられない。円安により原料が値上がりする商品等もあり、買物動向が活発になるとは思えない。」（北海道＝スーパー）などがあつた。

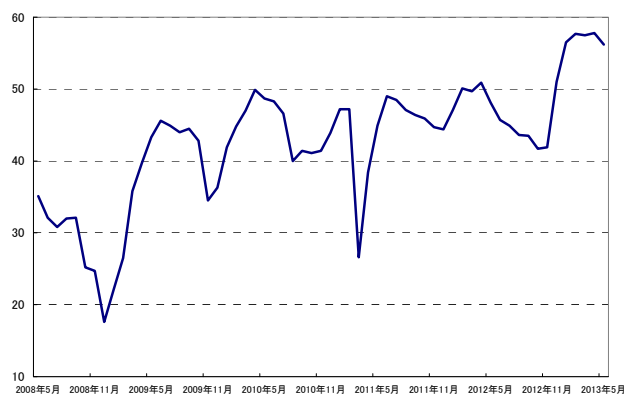
企業動向関連は、57.6 ポイントと前月を 1.2 ポイント下回った。これは「経常先の受注回復はまだ見えず、スポット先も先行きが全く読めない状況である。また、原材料の多くを輸入しているため、仕入価格が上昇傾向にあり、収益的にも悪化傾向にある。」（四国＝鉄鋼業）などから、円安を主因として原材料コストが上昇するに伴い、企業収益が圧迫される懸念が強い影響と考えられる。

雇用関連は、61.0 ポイントと前月を 0.8 ポイント下回った。これは電気料金値上げや円安による原材料コストの上昇に伴い、製造業を中心に収益が圧迫されることで、多くの企業が雇用に対して慎重な姿勢を取っている影響とみられる。

また、地域別に見てみると、景気の先行きに対する判断 DI は全国 11 地域中 10 地域で対前月比低下し、1 地域で対前月比上昇した。最も低下幅の大きかったのは四国（5.9 ポイント低下）、唯一上昇したのは九州（1.4 ポイント上昇）であつた。四国では低迷を続ける製造業を中心に求人伸びないことへの懸念の声がみられたことから、景気の先行き判断 DI が最も低下している。一方、九州では官公庁の仕事の発注が多くなりつつあることから景気の先行き判断 DI が唯一上昇している。

2013 年 5 月の調査では現状判断 DI は 2ヶ月連続で低下し、先行き判断 DI は 2ヶ月ぶりに低下するなど、上昇が一服したものの、DI の水準自体は引き続き高かった。仕入価格や電気料金の上昇等によるコスト増への懸念、株価下落による先行きの不透明感、など不安材料があるものの、安倍政権の景気刺激策による景気回復への期待感や夏のボーナス増加への期待感が引き続き見られるなど、景況感の改善基調は維持されている。

景気の先行き判断 DI の動向



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」